

2026.2.12 (木)
第30回例会
(通算3839回)

2025-2026 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」

会長 荒井 剛
副会長 池田 一己
幹事 横田 英喜
編集責任者 クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2025-2026 年度
国際ロータリーテーマ

『よいことのために手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度
RI会長 フランチェスコ・アレツォ
第2500地区ガバナー
佐渡 正幸 (釧路北RC)

本日のプログラム 会員卓話「サウジアラビア旅日記」(プログラム委員会)

次週例会 釧路市長講話 (プログラム委員会)

- ロータリーソング：四つのテスト
- ソングリーダー：倉見 悠介君
- 会員数 106名
- ビジター 釧路北ロータリークラブ 菊池 美恵子パスト会長
- ゲスト

会長の時間 荒井 剛会長



今日は少し早めに始めているので、デザートなど、まだあると思うのでゆっくり食べながら聞いてください。本日はこのあと

で、私が昨年11月にサウジに行った時の話をする関係で、話すことを準備している段階で、なぜ、このサウジの研修に行くことになったのか、ある3人の知り合いに接点を持った人について、今の時間に話さないと間に合わないスライドになってしまいましたので、この時間で話させていただきます。

私は何年か前に、毎朝5時半くらいから、朝からみんなで集まるズームミーティング「朝活」に入っているのです。それを主宰している山中恵美子さん、『瞬読』で著名な女性ですが、その人のコミュニティに入っていることがきっかけで、知り合った別の2人がおります。まあ、山中さんを通して知りあった方が今回のサウジの研修のキーパーソンになっています。

日本の中小企業である『DG TAKANO』という会社の高野雅彰さんです。40代です。この方がどうサウジに関わっているのかというと、西村経済産業大臣の時に、日本のスタートアップ企業として何社か選ばれたのですが、その中の一つが『DG TAKANO』でした。

どんな会社をやっているかという、「カンブリア宮殿」という番組にも取り上げられたのですが、節水

の技術、90パーセントも節水するという優れたもので『Bubble90』という商品名で売っているのですが、今の日本の外食産業の9割がそれを導入しています。サウジは砂漠の国ですからこの節水技術が注目され、現在、サウジの国家プロジェクトに関わるほどの企業なのです。

高野さんは、現在、ドバイに住んでいるのですが、その高野さんが「これからサウジは伸びるよ、今のドバイを見てください。ドバイはものすごい高層ビルで、本当にリゾート地になっています。そのドバイの次に来るのがサウジですよ」と話されていました。「そのサウジに行くことによって今後の自分の人生が変わるし、心の持ちようも全部変わりますよ」という話もありました。

もうひとつ、『タイガーモブ』という会社。菊地恵理子さんが立ち上げた会社です。これは「若者たちに早い段階から海外に行って学んでほしい」と、インターンを企画して海外研修に行ってもらおうという事業です。菊地さん、高野さん、そして、山中さんが一緒になって「サウジアラビア研修」が企画されました。そして、このような研修があるよ、ということ山中恵美子さんの朝活ミーティングで聞かされて、これは絶対行ったほうがいいな、ということで参加することになったのです。

詳しい話は、これから後でご説明します。もし、お時間があれば「DG TAKANO」の高野さん、「瞬読」の山中さん、「タイガーモブ」の菊地さん、をネットなどで調べていただくと出てくると思います。

ちなみに、菊地恵理子さんは東京と道東の2拠点で生活をされています。釧路と東京を行ったり来たりしていると聞きました。機会があれば、その方に釧路に来た時に時間を見つけていただいて、外部講師としてお話ししていただければ、と伝えているところです。

もう少ししてからサウジの研修についてお話させていただきます。

これで会長のあいさつを終わらせていただきます。ありがとうございます。

幹事報告 日理 一哉副幹事

幹事報告を代理でさせていただきます。

本日、『ロータリーの友』2月号をキャビネットに入れさせていただきますので、ご確認をお願いいたします。以上です。

■本日のプログラム■ 会員卓話「サウジアラビア旅日記」

プログラム委員会 藤井 敬亮委員長

こんにちは。それでは時間が足りないようなので、あっさりと。「サウジアラビア旅日記」を荒井会長よりお話いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

会員卓話

釧路ロータリークラブ 荒井 剛会長



こんにちは。サウジの研修に行っていましたので、その話をさせていただきます。私は会長になる時に話したかもしれませんが、現状維持は衰退だということを常に私思っておりまして。この研修を行って、ますますその思いを強くしてまいりました。時代はいろいろ変わっていますので、なにか変革しないといけない、改革しないといけない、その時代に合った概念とかを取り入れていかなければ生き残れないのではないかと強く思いました。では、始めたいと思います。

皆さん、「サウジ」と聞いてどう思いますか、どんなイメージを抱きますか。私も行く前は、こんなイメージしかありません。帰った後も大きく違いはないのですが、果てしなく広がる砂漠があります。イスラム教のメッカがあるのはサウジアラビアですので、何より厳格なイスラム教。アルコール酒は一切禁止されています。

私は、お酒が飲めないので何とも思わなかったのですが、ここがけっこう観光客からするとネックにな

るところではないかと思えます。アルコールと煙草に関しては厳格で、お店でも一切売っていません。いわゆるバーのように見える所でも出てくるのはジュースです。一切、アルコールはありません。また、サウジアラビアといえば天然資源である石油、そのオイルマネーで成り立っています。また、ラクダ。あとは、男性は「トーブ」という白い民族衣装を着ているのが正装となります。女性は真っ黒な「ローブ」や「スカーフ」を着て、目だけを見せるのが正装になっております。

しかし、いまのサウジは本当にそれだけなのでしょう

か？
まず、サウジの基礎的なデータを確認していきましょう。日本とサウジを重ねてみると、サウジの面積は日本の6倍になります。ただし人口は3500万人ですので、日本よりもだいぶ少ないです。国名は「サウジアラビア王国」です。サウジアラビア王国の意味は皆さん分かりますか？サイド家のアラビアの国ということです。それでサウジアラビアと呼ばれています。豊かなエネルギー大国です。名目GDPと一人当たりのGDPを見てみますと、国のレベルのGDPでは、日本は世界で4位ですけども、サウジは19位です。ところが一人当たりのGDPになると、ほぼ同じぐらいになっています。そんな感じですけど、まだまだ石油に依存していることになります。

ところが、いまなぜ、サウジが注目されているのかです。まずは、スポーツの世界、クリスティアーノ・ロナウド、ネイマールは誰もが知っている有名なプロサッカー選手です。この方は、今どこにいるのかというと、サウジアラビアのプロサッカーリーグに属して、そこでプレーをしています。2034年にはサウジアラビアでワールドカップが開催されることも決まっています。

年末には、井上尚弥選手がボクシングの試合を行いましたけども、実はサウジアラビアでやっていました。「リヤド・シーズン」と呼ばれているサウジの首都リヤドで一年に一回、世界的に注目される様々なエンターテインメントを開催するというシーズンがあるのですが、井上選手がそのリヤド・シーズンに参加するという契約をしています。なので、また、サウジで試合をすることになると思います。

その他、エンタメの世界でいきますと、eスポーツのワールドカップがリヤドで開催されています。2年ほど前から毎年、サウジのリヤドで開催されています。世界中からeスポーツの集団が集まり、賞金総額105億円という大きなイベントとなっています。さらに、これはまだ建設されていないのですが、確実に建設されるといわれているアミューズメントパークがあります。それは「ドラゴンボール」をテーマにしたテーマパークです。聞いたことあるかもしれません

が、実は、サウジアラビアという国は、大の日本アニメ好きです。あの日本の「ドラゴンボール」をテーマにしたテーマパークが出来上がる予定なのです。中央には、「神龍」を模したモニュメントが建設され、周りにジェットコースターが計画されています。おそらく2030年ころにはできるだろうと言われています。なぜ、2030年なのか。

去年、ミャクミャクで話題になったのは大阪万博でした。次の万博の舞台はどこでしょうか。そうです、サウジアラビアなのです。2030年、今から4年後です。万博がリヤドで行われます。2030年の万博に向けて、ものすごい勢いでサウジは成長しています。いろんな所に力を入れています。

ここでキーワードをひとつ紹介します。

キーワードは「MBS」

みなさん、「MBS」って分かりますか。DAIGO ばりの略語ではなくて、これはとある人のことを指します。正解は、ムハンマド・ビン・サルマーン皇太子です。略してMBS。サウジの人たちに「MBS」と言ったら、当然、彼のことだと分かりますし、世界でも「MBS」と言えばもう彼のことだと分かっています。なぜ彼がキーパーソンなのか。彼はまさにサウジのリーダーです。皇太子ということは分かっていたけれど、「皇太子」だけでなく「首相」なのです。国王の下、行政を仕切っているのが彼なのです。彼が「こうする」と言ったら、その下の人たちは、彼の号令に従って全部が動き出します。これまでの厳格なイスラム教の中で彼は、この時代に合わせて、変容を許容する野心的なリーダーです。この彼がキーパーソンです。

彼が2016年にぶち上げたのが、『VISION2030』というもの。これがまた、とんでもないものなのですが、大きな柱3つをぶち上げました。「活力ある社会」、「反映する経済」、「野心的な国家」という3本柱です。本当に大丈夫なのかというぐらいのメガプロジェクトが散りばめられています。毎年、進捗状況について「アニュアル・レポート」が公開されています。世界中、誰でも閲覧可能です。このVISION2030に対し、世界中からの投資を求めています。投資だけではなく技術もつぎ込んでもらって、サウジの発展に寄与してもらおうとしています。

ギガプロジェクトといわれているのがいくつかあるのですが、ここで一つ紹介したいのがあります。サウジ研修に私が参加したいなと思ったのは、このようなプロジェクトが計画されているのですとあって2分程度のYouTube動画を見せられたからです。動画を見て、本当かいな？と思ったのですが、そのあまりのスケールの大きさに心を動かされ、研修に参加することを決意しました。ぜひ、これを見ていただきたいのです。砂漠の中に都市を作り上げるというギガプロジェクト

『NEOM(ネオム)』の中の話です。砂漠に都市をつくるという話自体はこれまでもある話なのですが、その都市構想が驚きです。こんな都市をつくれるのかという話です。「ザ・ライン」と呼ばれている構想都市のイメージです。

(動画鑑賞)

砂漠の所に鏡張りの建物、高さは500メートル、横は200メートル、長さが170キロの都市をつくると言っているのです。その中は、全部再生可能エネルギーを使い、端から端までは15分で移動できると言っているのですが、SFの世界です。想像を絶することをやろうとしていること自体に驚いています。現在、予定通り、工事が進んでいるわけではなく、進捗率でいったら20%ぐらいのようです。2030年までにはさすがに完成はしないと言われていますが、目標に向かって突き進んでいます。

これはギガプロジェクトの単なるひとつに過ぎません。このようなことがいろんな所で同時に進行していることがすごいことなのです。

さて、このサウジ研修ですが、冒頭でお話したとおり、DG TAKANOの高野さんや、瞬読の山中恵美子さん、タイガーモブの菊地さんで企画され、総勢50名で参加してまいりました。

まず、サウジに行くためにはビザを取らないといけないので、サウジのビザを取り、子のスライドにあるようなルートで行きました。サウジまでの直行便がないため、羽田からカタールのドーハを経由して、リヤドに飛びました。サウジアラビアでは、多くの観光客を呼び込もうとしていますので、近いうちに日本との直行便もできると思います。サウジの主張によると、「6時間程度あれば、世界中の8割からサウジにアクセスすることが可能である」と言っていました。ただ、日本からは絶対に6時間では着きませんので、世界中の8割の中には入っていないことにはなりますが、実際、地理的にも世界中の8割の国からは6時間もしくは8時間でサウジに来られると言っています。以上が、なぜ私がサウジ研修に参加することになったのかということを説明する前半部分です。これから、サウジ研修でどこに行き、何をみて、そして、どんなことを学んだのか写真を見せながら、紹介します。

(初日の研修)

初日、まず50人の参加者の多くは、お互いをまったく知りませんので、遅めのランチをとりながら自己紹介をしました。50人を4、5人毎にグループに分け、グループごとにこの研修に参加した意義、目的などについて協議し、共有する時間を取りました。

初日のテーマは、イスラムの食文化と宗教を体験する

ということでした。まずはイスラムの食文化を味わい、夜は、リヤド最大のモスクである「キング・ハレド・グランドモスク」に行きました。けっこう綺麗な所です。ここは祈りだけではなくて、お葬式などもやられています。

イスラム教はスンニ派とシーア派という大きな2つに分れているのですが、サウジのほうはスンニ派です。イスラム教の多くはスンニ派で、その聖地といわれているのがサウジアラビアです。サウジアラビアの人たちは、自分たちがイスラム教のメインですというプライドを持っている方です。

最初に彼らはお清めをします。この清めの作法が思っていた以上に、非常に細かく徹底してやっていることが分かりました。まず、手を洗う、口をすすぐ、鼻に水を入れてすすぐ、顔を洗う、さらに両腕を手首から肘まで洗う、濡れた手で頭をなでる、耳の中と周りを拭く、両足をくるぶしまで洗う。ここまでを全部やって、初めてお祈りに行くと教えていただきました。私たちは2階に案内していただいたので、そこから実際に、彼らがお祈りをしているところを写真に撮っています。スンニ派とシーア派では1日の御祈りの回数が違います。スンニ派は1日5回。夜明け前、正午過ぎ、午後、日没直前、夜の5回です。この夜明け前というのが曲者でして、午前4時ぐらいになると町中に「お祈りの時間ですよ」という呼びかけの音が響き渡ります。滞在期間中、毎朝、私は、それで起きました。それで目が覚めるのです。ただでさえ時差ボケでしたけれども、全然寝られなかったのです。この「アザーン」と呼ばれている呼びかけに慣れる必要があると思いました。

さて、写真に写っている方々、これは全部、男性です。男性と女性はお祈りする場所が別になります。男女分れているのが、サウジの特徴でして、つい最近まで女性は車の運転も禁止されていました。男女で差を設けるのは、男尊女卑の思想が背景にあるのかと思っていたのですが、全く逆でした。むしろ、祈りの場所で男女が一緒になると女性が危ないという思想を持っているから分かれているらしいのです。狭い所で祈ると肌と肌が触れ合ってしまうから、女性に対して何かをしでかす人もいるかもしれないし、男性は物理的に力があるから女性を守るという意味で分けることにしていました。

こういう格言があります。「ある旅人が預言者に対して、「私が最も大切にすべき人は誰ですか」、と聞きます。そうすると、預言者は「お前の母親である」と答えます。では、「その次は？」と聞きます。すると預言者は「母親である」と。「その次は？」、「母親である。」と。さらに「その次は？」と言って初めて父親が出てきます。つまり、大切にすべき人は、母親、母親、母親、そして、その後ようやく父親である、と言い伝

えられています。サウジの国民みんなが口をそろえて言っていました。

ということで、サウジでは、男尊女卑という視点ではなく、女性を守る、とりわけ母親を大事にするという思想がいきわたっているのだと思いました。本当は表向きかもしれませんが、それはすごく感じました。それが初日の研修でした。

これを振り返った時に自分は、イスラム文化はこうなのだ、男女別というのは、こういう意味なのだと感じたというのが、1日目でした。

このような振り返りを5日目までやりますが、みなさん、大丈夫ですか？

(二日目)

次が2日目です。2日目はどこに行ったのか。まずサウジ政府関係者から「ビジョン2030」の説明をいただきました。そこには、サウジの大学の教授や学生さんも来てくれていました。せっかく、サウジ側から大学関係者も来てくれるということで、我々、日本からの参加者からも何人かプレゼンをするということになりました。参加者の一人に和菓子職人がいたので、和服姿で和菓子を作る実演を英語でプレゼンしてくれました。もう1人は、日本の義務教育を英語でプレゼンしてくれました。そして、もう1組は、参加者の最年少で16歳の高校1年生の女子と男子がペアで、英語で、高校生から見た日本が抱える問題として、高齢化問題を題材にしてプレゼンしてくれました。日本の場合、生産人口が少ないのが問題だけれども、視点を変えたらチャンスだということを話していました。この写真に写っているのが高校1年生の男女です。真ん中にある男性がサウジ側の教授です。ちなみに、一番右が私の息子です。今回、一緒に連れて行きました。その後、昼にかけ、「デジタルシティ」とう場所に向かいました。デジタルシティというのは、名前のおりAIなどのデータを全部集約化しようとしている建物が集まるシティです。旧市街の一部を再開発し、このような近未来的な建物が立ち並ぶ場所に発展しました。簡単には入れないようでしたが、我々は日本から来ましたと伝えると、さすが親日国家、比較的スムーズに入ることができました。

左の建物、外から見るとこんな感じになります。ちょっと離れた所から見ると、四角い建物が4つ並んでいる感じですが、建物の内側が中央にそってえぐられているような感じになっています。全部ガラス張りなのですが、サウジは暑いので、防熱対策のため、外側に向けた柵のようなものを設置しています。黄色くなっているのがその理由です。

デジタルシティの真ん中には噴水が設けられています。噴水の周りにキッチンカーのような出店がありました。現地の人がお昼を買いに来ていました。キッチンカーはハンバーガー屋でした。私はハンバーガー大

好きなので、当然、ここでもハンバーガーを食べました。

写真に写っている現地の人をみてわかると思います。皆さんやはり白い服が正装なのですね。サウジの男性たちは白い服を普通に着ています。

次の写真は、噴水近くで皆集まり、一日目、二日目の研修を終え、気づきや学びを皆でグループトークをしている様子です。

この写真は、デジタルシティ内にあるモスクです。こんなに綺麗なモスクが建てられています。モスクといっても、1日目で訪問したモスクから二日目の近代的なモスクまで幅広くあることがわかりました。

そし、その日の夜は、サウジの建国の原点という所に行ってみりました。世界遺産になっています。「ディルイーヤ」と呼ばれている都市です。日干しレンガ造りの遺跡です。元々、1800年ぐらいに作られたものがそのまま残っているので世界遺産になっています。すごくきれいな所です。

ここも「ビジョン2030」のひとつで、観光客を呼び込むため、建国の原点となる世界遺産となっている遺跡を中心に、周囲に、高級レストラン、ショップを配置し、多くの外国人を呼び寄せるための一つの観光名所に仕立てています。「きれい」という言葉しか出てこないのですが、本当に素晴らしくて夜になるとライトアップされてきれいです。それを見ながら食事ができる場所を今どんどん作り上げています。もし、サウジに行く機会があったら、ここも絶対に行っていたきたいです。

この場所が、サウード家が第一次政権を作った時の跡地になります。高級レストランにて夕食を食べ二日目の研修を終えました。

(三日目)

三日目、本来であれば、私も息子も三日目の研修に参加する予定でしたが、とんでもない事態が起きました。なにが起きたのか。息子は食べ物についてアレルギーを持っていましたので気を付けてはいたのですが、二日目の夜、高級レストランで出された食事の一つの中にアレルギーとなる食材が含まれていたのだと思いますが、アナフィラキシーショックになりました。これまでアレルギー症状が出たときに備え、エピペンを常時持っていたのですが、幸いにもこれを使用することなく生きてきましたが、この日、はじめてつかうことになりました。エピペンを打ち、ホテルに到着した後、すぐに救急車を呼びました。私が心配したのは、病院などで、アラビア語しか通じなかったらどうしようかという点でした。しかし、それは杞憂でした。救急隊員、病院の受付、医師、すべて英語が通じました。外国人だから受け入れてくれないのではないかと、また、夜間の救急外来だったことも心配でした。が、そこも問題なく受け入れてくれました。図らずとも、サウジ

の医療水準の高さ、外国人の受け入れに体制が整っていることについても実感することができました。そして、医療費のことが心配になりました。海外で病院にかかる場合、「保険を使えばいい」と言われたりしますが、サウジで使えるのか、まずは先にカードを使用するなどして支払いをしなければならないのではないかと思いました。実際、先に支払うことになりました。アメリカで、例えば「風邪をひいてどこかに行ったら、何百万円」という話があります。ましてや救急車も呼んでいる。いくら請求されるのかとびくびくしていたら、日本円にして2万円程度だったと思います。後日、無事に保険会社に保険請求して免責範囲を除き、補償してくれました。さて、その息子ですが、病院からホテルに戻るとそのあと、ほぼ1日中、ベッドで寝ていました。そのため、三日目の日中の研修には参加しませんでした。ただ、息子も夜になって復活しました。そこで、私たちは、リヤドのエンターテイメントシティと言われているブルーバードシティに行きました。写真に写っているようなロープウエーで移動しています。紹介したいのは、「オタクストア」です。これはチェーン店です。オタクストアは「オタク」という日本語から来ています。その名前のとおり、「呪術廻戦」や「ワンピース」のキャラクターTシャツやフィギュアが売られています。これは、向こうでは大人気です。

これは、eスポーツの世界大会が開催された会場の写真です。

ブルーバードシティ内には、このようなモニュメントがいたるところに設置されています。「マインクラフト」という世界的な有名なゲームをテーマにしたアトラクションも。左の写真は、あのディズニーキャラクターである「ドナルド・ダック」が複数、円のように形作られたモニュメントがあります。少し気持ち悪い気もしますが、きちんとディズニー社が公認しているとのこと。これが三日目でした。

(4日目)

ギガプロジェクトをひとつ紹介します。これも新しい都市を作るというものですが、これがまたとんでもない構想なのです。400メートルの立方体を作って、その中にこのような建物を作るという計画です。400メートル四方の建物を作り、その中に街を作る構想です。これもちょっと圧倒的なスケールな話なのですが、これを大真面目に取り組んでいます。

そのあと、私たちは、車で少し町から離れた場所に移動し、ラクダに乗ったり、さらに砂漠の先に行き、近未来から悠久の時を感じる場所に移動しました。その時の写真のひとつです。

(5日目)

最終日は、マスマク城塞に行きました。二日目の夜、サウジの建国の拠点となった遺跡を紹介しました。その後、サウジはオスマントルコにやられて追放されま

す。そして、リヤドを支配していた権力者を追い出すため、サウド家が奇襲をしかけ、権力を奪還しました。その舞台となったのがマスク要塞です。ますます要塞の周辺には古くからの市場があります。市場には現地の人が多く訪れます。そこで、研修の一環として、3人毎のグループに分かれ、それぞれ「お題」を考え、最低10人以上、現地の人に声を掛け、インタビューをし、後に回答をまとめて皆でシェアするということになりました。

私たちは3人のグループでしたが、最初に声をかけた人たちは全く英語が通じませんでした。その後、スマホのグーグル翻訳機能を使ってアラビア語で筆談したりしましたが、なかなかうまくいきませんでした。その後、英語で答えられる人も出てきて、なんとかインタビューを終えることができました。ちなみに、お題は、「ビジョン2030についてどう思うか」。若い人は、「みんな支援する」と。写真に写っている右下の女性は正装しており、目だけしか見えないため、一見すると怖く見えますが、すごくフレンドリーでした。向こうから近づいて来て、「話したい」「話したい」と言ってきています。今のサウジの若者たちは、すごく積極的に声をかけてくれています。

最後は、リヤド市内の図書館です。図書館の前の広場で、参加者一人一人が振り返りを発表しました。私が感じたことは、皇太子によるリアル・マイクラフト。マイクラフトは、好きなように世界を創造することができるというゲームなのですが、それを本気でやっている。皇太子によるリアル・マイクラフトをやっているのがサウジなのだなぁ、と思いました。

また、サウジの生産人口は圧倒的に多いです。若者が圧倒的に多いのです。その若者のエネルギーを本当に感じる事ができました。私はこれまで多くの国を訪れていますが、治安が一番いいと感じたのはサウジです。なぜそう感じたのかというと、夜の10時、11時でも、アミューズメントパークで小さな子供を連れて家族連れが「キャット キャット」しているのですが、誰も何も言わない。そういうことができるような雰囲気なのです。寛容性があるということで、すごく平和を感じました。2030年にサウジで万博がありますので、私は必ずそれに行きたいと思っています。

最後に、懸念していることは、厳格なイスラム教がどう変わって行くのか。アルコールに関して、最近、外国人に対して、解禁し始めました。それが果たしていいのか悪いのか、今後どうなっていくのだろうかと思いました。あと、一夫多妻制について。以前と現在ではだいぶ違います。MBSである皇太子も妻は一人しかおりません。そういうところ、伝統と変容、ここをどうバランスよくとっていくのか、どう変わって行くのか、ぜひ、注目していただきたいと思います。

もし、2030年に一緒にサウジに行ける人がいれば、一緒にサウジに行きましょう。

以上です。

本日のニコニコ献金

■荒井 剛君 今日はサウジ研修報告会の機会を頂き、ありがとうございます。皆様是非サウジへ

今年度累計 354,420 円